

# 経営比較分析表

広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有効率(%)
-	該当数値なし	12.73	100.00
		4,914	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
55,302	778.14	71.07
處理区域内人口(人)	處理区域面積(km <sup>2</sup> )	處理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,988	3.38	2,067.46

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 平成26年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率、企業債残高対事業規模比率  
平成26年度は、「収益的収支比率」が6.7%程度であり、「企業債残高対事業規模比率」は、当該団体値に、本来控除すべき一般会計の公費負担分を含めて算出しているため、平均値より比率が高く見えるが、実数値は類似団体平均値とほぼ同様の比率にある。今後も、一層の改善に努める。

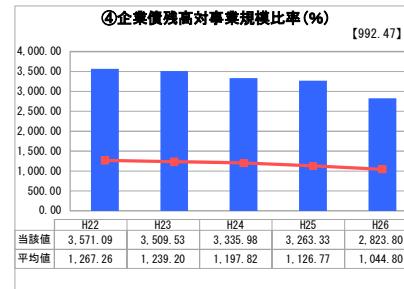
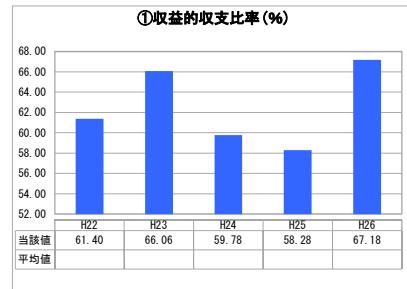
- 経費回収率、汚水処理原価  
中山間に位置する本市は過疎地域であるため、地理的要因により、工事費や維持管理費が割高である。また、8市町村で合併したため処理場の数も多いことから、汚水処理原価が平均値に比べ高い状況にある。今後も、経常的経費の節減と適正な経費回収に努め、処理場の統廃合について検討する。

- 施設利用率、水洗化率  
農業集落事業計画の変更により、平成22年度と平成23年度で施設利用率や水洗化率に年度間格差がある。水洗化率が平均値に比べ低いため、加入促進を行い、水洗化率向上に努める。

### 2. 老朽化の状況について

昭和63年から管渠整備に着手し、平成4年から供用開始しているため、管渠の老朽管更新を行う時期ではないが、計画的な更新に努める。

## 1. 経営の健全性・効率性

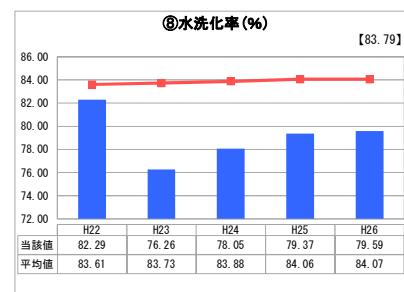
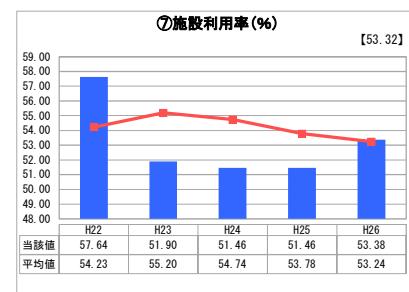
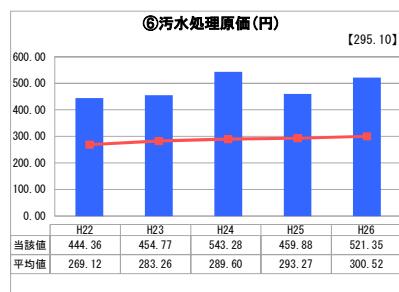
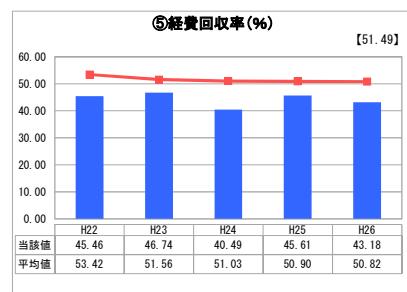


「単年度の収支」

「累積欠損」

「支払能力」

「債務残高」



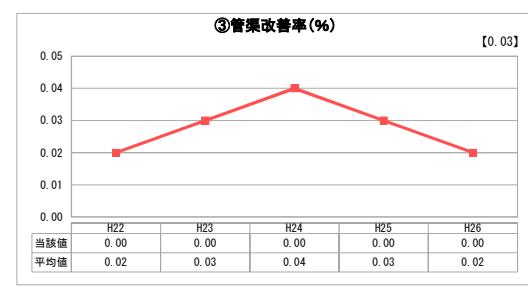
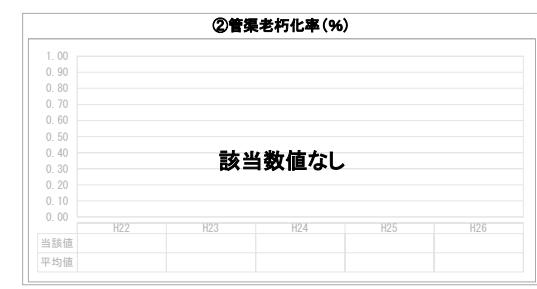
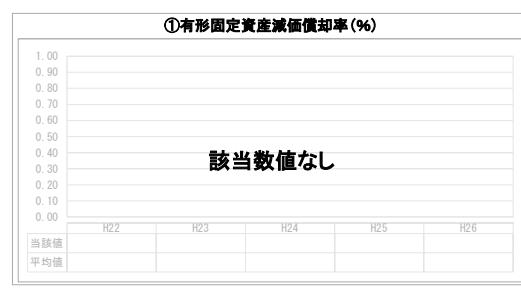
「料金水準の適切性」

「費用の効率性」

「施設の効率性」

「使用料対象の捕捉」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「管渠の経年化の状況」

「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 全体総括

8市町村の合併により、現在12処理場を有しているため、汚水処理原価が高く、経費回収率が平均値に比べ低い状況にある。

今後は、公営企業会計化へ向けて資産を整理し、施設効率の改善を行なながら、処理場の統廃合も視野に入れ、計画的な事業展開に努める。

\* 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
\* 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。